

《虐待防止の取組》

○自閉症等研修（7月6日、10日、13日、14日）



発達障害者支援センター（はばたき）の竹村忠憲氏、新藤崇代氏を講師に4日間にわたって研修会「自閉症スペクトラムの特性と構造化のアイデア」が桃山学園内において実施されました。自閉症の人の文化を尊重し、我々から自閉症の人に歩み寄る必要があること、障害特性を学ぶことは最低限の要請であることを学びました。



○虐待防止研修（6月25日、7月18日、8月10日）



京都府社会福祉事業団の虐待防止研修が3回にわたって実施されました。7月18日の講師はNPO法人PandA-J代表の堀江まゆみ先生です。“自閉症の理解”として、「自閉症の特性」を学ぶことが、TEACCHプログラムの基盤となります。日常の自覚のない虐待、小さな不適切な対応（行為）の積み重ねが大きな虐待・事件を起こします。

軽微な虐待と不適切ケア、重篤な虐待、グレーゾーンはありません。

不適切はアウトという認識に立つことが予防への第一歩です。

親や職員がセルフリセット出来る研修内容でした。

職員同士が支援の悩みを抱え込まず、相談、協力し合える職場環境が大切であるということも分かりました。



○桃山学園虐待防止委員会（9月14日）



外部の有識者に入っただいて、「桃山学園虐待防止委員会」を立ち上げました。会議とあわせて施設観察も行う中で、改善のための具体的な助言をいただきました。外部委員は、寺本眞澄委員（京都市ふしみ学園施設長）、坂口武弘委員（児童養護施設青葉学園長）、小林幸次郎委員（伏見少年補導委員会会長）、平岡克也委員（京都府立八幡支援学校長）、式部一馬委員（保護者代表）の5名の方をお願いしております。



○桃山学園保護者説明会【第2回】（9月17日）

虐待事案のこれまでの経過と桃山学園の虐待防止の取組状況について説明し、御意見をいただく中で、学園改革の方向性の共有に努めました。

